■自著紹介■

北海道の企業 — ビジネスをケースで学ぶ［札幌大学産業経営研究所企業研究シリーズⅠ］

小川正博
森永文彦 編著
佐藤郁夫

北海道大学出版会
2005.12

産業経営研究所企業研究シリーズ第1集の本書は、札幌大学を中心とする研究者の産学官連携の成果であり、北海道の地場企業のなかから特色ある経営の実態を解明したものである。著名企業12社の経営を取り上げて、創業時からの経営の変遷、業界内での経営の特色、経営戦略、オペレーションの仕組み、経営の成功要因、企業家精神などを中心に経営活動の内容を紹介した。

本書はサブタイトルに「ビジネスをケースで学ぶ」とつけたように、実例を通じて経営や経営学を学ぶことを目的としている。一方で、経営者の歩み、環境変化の中でどのような方法によって、課題を解決してきたのか、それを可能にしたものは何か、といったダイナミックな企業の姿も知ることができるように努めた。

今、経営学の分野では実際の企業の事例から経営を学ぼうとする傾向が強くなっている。本書は本格的なビジネスのケース集であり、全国的にみても経営学研究に先鞭をつけるものの一つである。

馬産地80話 — 日高から見た日本競馬

岩崎徹著
北海道大学出版会
2005.11

この本は、北大刊行会が北大出版会と名を変えてから第一号の本であり、そして、私にとっては競走馬に関する二冊目の本である。

私がはじめて日高地方を訪れてから四半世紀になる。この間には馬産地の浮き沈みもあり、ブームに沸き「この世の春」を思わせる時代もあったし、不況に打ちひしがれた時代もあった。現在は、不況のどん底である。この本では、この間の浮き沈みを通した日高地方の、等身大の馬産地の姿と仕組みを分かりやすく解説した。本の構成は「競走馬と馬産のはなし」「競走馬のサイクルと牧場」「繁殖牝馬と種牡馬」「競走馬取引のはなし」「日本競馬の仕組み」「日高パスポートの夢」など9部編成であり、1話ずつ80話の読み切りにした。この本では、競馬・競走馬世界を明らかにするため、果敢に挑戦や冒険をした。興味ある人は、私の冒険の跡をご覧あれ!

多文化共生時代のコミュニケーション力

御手洗昭治著
ゆまに書房 2004.4

「異文化間における言語・非言語コミュニケーション能力、さらにネゴシエーションやミディエーション能力。これらは、21世紀のビジネス界を生きるに不可欠のスキルだ。個人と組織が文化の相違にどう対応し、効果的で説得あるコミュニケーションをいかに確立するのか。その理論と実践例とともに紹介する必読の一冊」（季刊誌「Global Manager」,TOEIC協会Vol.19, IIBBより）

主な内容として「多文化共生時代のキーワードとは?」、「多文化共生時代の14項目のコミュニケーション・パワーを磨く」、「E.O.ライシャワー博士の説く「異文化理解とは」、「ブリジストン」Vs.「フォード社」の異文化紛争とその教訓、「日英のはじらいに見るグローバリゼーション」、「異文化の人々の行動パターン解読法」など、参考になる話題が満喫されている。

本著は、異文化コミュニケーション学会、日本交渉学会、多文化関係学会やその他、関係学会の研究者、ビジネス、教育関係者が推薦する一冊でもある。